



平成28年度

文部科学省先進的医療イノベーション人材養成事業
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育プログラム

特別講義 II

帝京大学大学院 医学研究科

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」はがん診療・研究のための教育拠点を構築し、長期的な人材育成を目指しています。

本学では「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」プログラムを実施しており、その一環として、スキルアップを目指す医療スタッフの方々に大学院医学研究科の講義の一部を公開します。

【申込方法】

1. 対象 医師・看護師・薬剤師・その他医療従事者
2. 受講申請 受講したい講義の1週間までに下記いずれかの方法によりお申込みください。
 - ①がんプロHP専用申込みフォーム
<http://www.teikyo-ganpro.jp/> <セミナー情報>をご参照ください。
 - ②郵送、FAXまたはメール(PDFファイル)にて「受講申請書」(最終ページ参照)に希望日および必要事項をご記入の上、下記宛までお申込みください。
※お申込みの不備がある場合には、受講できない場合がございます。ご注意願います。
受理後、お申込み時にお知らせいただいたメールアドレスへ確認メールをお送りいたします。
連絡がない場合はお手数ですが、下記問い合わせ先までご連絡願います。
3. 受講料 1科目 2,000円 ※受講コマ数に関わらず一律となります。
受講日初日に受付にてお支払い下さい。
4. 受講証 受講料と引き換えに「受講証」をお渡します。
「受講証」がない方の受講はできません。
「受講証」は受講終了日にご返却願います。
5. 会場 **帝京大学 板橋キャンパス 大学棟2階 209教室 【8/26(金)】**
本部棟2階 臨床大講堂 【9/1(木)、9/8(木)】
講義日程・教室は変更となる場合がありますのでご了承願います。なお、変更の際はお申込み時にお知らせいただいたメールアドレスまたは携帯電話にご連絡いたします。
6. 修了証 規程コマ(8コマ)以上受講(e-learning講義視聴含む)されました方には本学からの修了証を発行いたします。
修了証は後日に「受講申請書」に記入の現住所に郵送させていただきます。
7. その他 交通費は各自でご負担願います。
申請されました受講日に出席出来ない場合、または申請されている受講を科目内で追加される場合は下記までご連絡願います。
8. 問合せ先 帝京大学 板橋キャンパス 教務課 がんプロ担当
〒173-8605 板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-1211(代表) 内線42122
受付・月～金曜日(平日) 8:45～16:45 FAX 03-3964-8396
E-mail : ganpro@med.teikyo-u.ac.jp

帝京大学がんプロホームページ
<http://www.teikyo-ganpro.jp/>



特別集中公開講義

第1回 平成28年8月26日(金)16:00-17:30

はじめに・・・有賀悦子(帝京大学医学部緩和医療学講座(緩和ケア内科)教授) 開講にあたってあいさつ



タイトル:『緩和ケアとチーム医療～その人らしさを導くナーシング』

講師:梅田恵先生(昭和大学大学院保健医療学研究科 がん看護専門看護師コース)

がんの診断により多くの人は、不確かな現実と直面し、自己コントロール感や自己効力感が低下するなど、大きなストレスを抱えながらがんに向き合うことになる。どのような状況であっても、その人自身の尊厳を守り、その人らしい時間が過ごせるように、緩和ケアが普及してきた。看護の専門性や機能について解説し、チーム医療の中でさまざまな職種がどのように協働することができるのか、皆さんと一緒に考えたいと思う。

第2回 平成28年8月26日(金)17:30-19:00



タイトル:『呼吸困難 ～呼吸器症状の緩和と苦痛緩和のための鎮静』

講師:田中桂子先生(がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科)

がん患者の症状は多彩である。ここでは主に呼吸困難の評価、原因に対する治療、対症療法について、日本緩和医療学会のガイドラインに即した標準的な治療戦略から、ちょっとしたケアの工夫までを概説する。さらに、終末期の難治性苦痛に対する鎮静についても簡単に解説する。様々な苦痛症状の緩和において共通する「基本的な考え方」と「多職種チームアプローチ」を理解するきっかけとしていただきたい。

第3回 平成28年8月26日(金)19:00-20:30



タイトル:『疼痛1 局所的アプローチ ～神経ブロックと脊髄鎮痛療法』

講師:服部政治先生(がん研究会有明病院がん疼痛治療科)

がんの痛みを治療する方法として、神経ブロックと脊髄鎮痛法を紹介する。これはオピオイドをすべてやめることができる治療法ではないが、有効に使用するとかなりの確率でオピオイドの減量を可能とし、また、眠気などの副作用を軽減してくれる。神経を破壊して伝達を抑える神経破壊術、緊急時に硬膜外鎮痛を行い、その後の脊髄くも膜下カテーテル及び皮下ポート設置術などについてその利点と実際の管理方法について概説する。

第4回 平成28年9月1日(木)16:00-17:30



タイトル:『緩和医療概論とセルフケア ～医療者自身の心のケア』

講師:高宮有介先生(昭和大学医学部医学教育学講座)

緩和ケアの本質である全人的ケア、特にスピリチュアルケアについて解説する。早期からの緩和ケアも重要だが、全ての人に訪れる死を避けることはできない。がん患者が残した手紙や日記、闘病記を通して、死から生やいのちを皆さんと一緒に考えたい。また、患者さんに向き合う医療者自身も心のケアも必要である。マインドフルネスをキーワードに、医療者自身のケアを紹介する。

第5回 平成28年9月1日(木) 17:30-19:00



タイトル:『精神症状 ～見落とししやすい心の問題に対応する』

講師:大西秀樹先生(埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科)

がんになると治療、社会生活、対人関係などでさまざまな苦悩が生じる。これらは大きなストレスで、精神疾患の発症要因となる。精神症状は患者さんや家族を苦しめ、がん治療に影響を与えかねないため、精神症状への対応はがん医療を円滑に進めるために欠かせない。家族も患者さんと同様のストレスを受けており、「第2の患者」と呼ばれている。家族に対するケアも、家族と患者さんのこころの安定のため必要である。

第6回 平成28年9月1日(木) 19:00-20:30



タイトル:『疼痛2 全身的アプローチ ～WHO方式鎮痛療法を使いこなす』

講師:有賀悦子先生(帝京大学医学部緩和医療学講座)

がん疼痛治療薬の種類や剤型は年々増えている。根幹であるWHO三段階除痛ラダーに沿って整理しつつ、それらの薬剤の特性を知ることが重要である。がん疼痛緩和の臨床例から薬物の選択、併用方法、副作用対策、突出痛の種類と対応方法、スイッチング、投与ルート変更方法などから参加者の経験に合わせ選択し、解説する。計算や指示の出し方など演習を取り入れる予定である。

第7回 平成28年9月8日(木) 16:00-17:30



タイトル:『非がん疾患の緩和ケアと在宅医療』

講師:平原佐斗司先生(梶原診療所)

緩和ケアは疾患や年齢を問わず、生命を脅かす疾患による問題に直面しているすべての患者とその家族に対して提供されるべきケアである。つまり、緩和ケアの対象はがんのみならず、多くの非がん疾患に、また成人のみならず小児にも及ぶ。現代人のほとんどの人(約6割)に緩和ケアのニーズがあり、緩和ケアを必要とする人たちには疾患に関わらず、何をおいても優先して医療とケアがとどけられなければならない。本講義では、在宅でのがんの緩和ケアの実際と主要な非がん疾患(心不全、COPD、認知症、神経難病等)の緩和ケアの実際と考え方について解説する。

第8回 平成28年9月8日(木) 17:30-19:00



タイトル:『コミュニケーション ～「ナラティブ・メディスン」が磨く臨床力とセルフケア力』

講師:栗原幸江(がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科)

患者の物語り、家族の物語り、そして医療者の物語り——医療の現場は「物語り」によって成り立っている。対話の姿勢を改めて意識し、相手の物語りを細やかに読み解き伝え返す「物語り能力」を磨き、医療者自身の「内なる物語り」の気づき(内省力)を深める「ナラティブ・メディスン」プログラム。「じっくりと聴く・観る・読む」「書く」「語る」など実践エクササイズを通して、日常臨床にあふれる「対話」から「臨床倫理」への応用へと活かせる「物語り能力」を培う意義をみなさんとともに味わいたいと思う。

第9回 平成28年9月8日(木) 19:00-20:30



タイトル:『がんリハビリテーション ～緩和ケア主体の時期を中心に』

講師:辻哲也先生(慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室)

がん患者では、がんの進行もしくは治療の過程で様々な機能障害が生じ、ADLに制限を生じQOLの低下をきたしてしまう。がん治療の進歩によりがん患者の生存期間が延長しつつあり、「がんと共存する時代」となった今、限られた期間をいかに過ごすのか、すなわち療養生活の質が重要となってきており、リハビリテーションの役割は大きい。緩和ケア主体の時期を中心に、知っておきたいがんリハビリテーションのポイントを解説する。

***** がんプロ全国e-learningクラウドについて *****

■□■ e-learningとは・・・

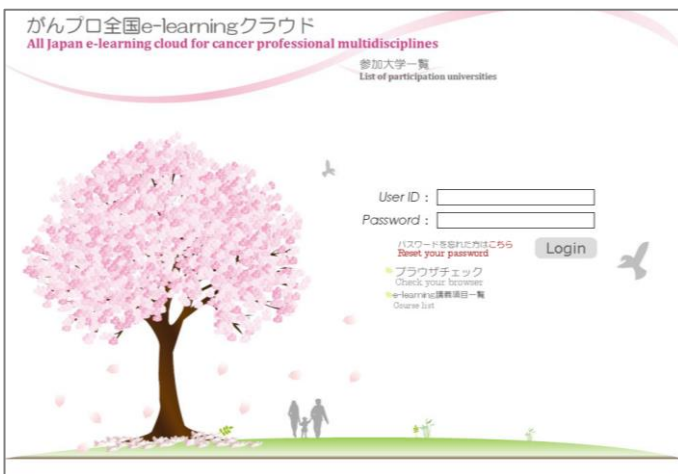
e-learningとは、自由な時間(研究や仕事の合間)に自由な場所(自宅、職場等)で自分の端末からインターネットでサーバーにアクセスし、講義が閲覧可能なシステムとなっております。このシステムは、ネットワーク環境さえ整っていればいつでもどこでも学ぶことができる大変便利で有意義なシステムです。

参加できなかった講義、もう一度聞きたい講義などございましたら、是非e-learningをご活用ください。

■□■ がんプロ全国e-learningクラウド

帝京大学がんプロの特別講義受講生は、下記URLより がんプロ全国 e-learning クラウドの聴講が可能です。聴講を希望する受講生は開始にあたりIDとパスワードの発行が必要となります。受講料をお支払いいただく際に所定の利用申請書類をお渡しいたしますので、必要事項をご記入の上、がんプロ事務局までお手続きください。

URL: <https://pj2.md.tsukuba.ac.jp/pj2/login.php>



※聴講方法については、ID・パスワード発行時に視聴マニュアルをお渡しいたします。

※一部の講義で聴講不可の講義がございます。あらかじめご了承ください。

■□■ 修了証の発行について

e-learningでの聴講と合わせて8コマ以上を受講されると、本学からの修了証を発行します。

Access Map



〒173-8605

東京都板橋区加賀2-11-1

TEL.03-3964-3294(直通)

● JR埼京線「十条駅」北口下車、徒歩約10分

● JR京浜東北線「王子駅」下車、
国際興業バス6番のりば 板橋駅行10分、

→ 大学棟本館2階 209教室

→ 本部棟2階 臨床大講堂

帝京大学:都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育プログラム
受講申請書

次のとおり、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育で開講している講義を受講したいので申請します。

● 科目名:特別講義Ⅱ 基本的緩和ケア医療人養成コース

※受講希望講義にチェックをしてください

チェック	No.	月日	時間	講義タイトル	担当教員
<input type="checkbox"/>	1	8月26日(金)	16:00~17:30	緩和ケアとチーム医療 ~その人らしさを導くナーシング	梅田 恵 外部講師
<input type="checkbox"/>	2	8月26日(金)	17:30~19:00	呼吸困難 ~呼吸器症状の緩和と苦痛緩和のための鎮静	田中 桂子 外部講師
<input type="checkbox"/>	3	8月26日(金)	19:00~20:30	疼痛1 局所的アプローチ ~神経ブロックと脊髄鎮痛療法	服部 政治 外部講師
<input type="checkbox"/>	4	9月1日(木)	16:00~17:30	緩和医療概論とセルフケア ~医療者自身の心のケア	高宮 有介 外部講師
<input type="checkbox"/>	5	9月1日(木)	17:30~19:00	精神症状 ~見落としやすい心の問題に対応する	大西 秀樹 外部講師
<input type="checkbox"/>	6	9月1日(木)	19:00~20:30	疼痛2 全身的アプローチ ~WHO方式鎮痛療法を使いこなす	有賀 悦子 教授
<input type="checkbox"/>	7	9月8日(木)	16:00~17:30	非がん疾患の緩和ケアと在宅医療	平原 佐斗司 外部講師
<input type="checkbox"/>	8	9月8日(木)	17:30~19:00	コミュニケーション ~「ナラティブ・メディシン」が磨く臨床力とセルフケア力	栗原 幸江 外部講師
<input type="checkbox"/>	9	9月8日(木)	19:00~20:30	がんリハビリテーション ~緩和ケア主体の時期を中心に	辻 哲也 外部講師

※日程は変更となる場合があります。

大学名(勤務先・所属)		専攻・専門分野	
※指導教授(連携大学院生のみ記入) ⑩		※学籍番号(連携大学院生のみ記入)	
氏名	ふりがな ⑩ (男・女)	職業	
生年月日	昭和 ・ 平成 年 月 日 (歳)		
連絡先	現住所		Tel(携帯)
	メールアドレス:		

事務部記入欄

No.

受付日 年 月 日 報告日 年 月 日

